



★ その他

## 《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【言語コミュニケーション文化研究科】			単位	2006	2007	2008	2009	2010	2011	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	1	1	1	2		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	1	1	1	1		
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		外国人留学生	正規	人	3	4	9	9	14	24	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	0	0	0	2	3	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	4.6	6.1	11.7	12.3	19.7	30.4	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	2.7	2.8	—	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	1	0	0	0	0	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	1	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	1	1	1	1	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

(その他の指標)

協定校と相互交流数(学生・教員)

国別国際交流協定締結先機関数

国別留学生数(学部別)の経年変化

★ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	大学院外国人留学生海外推薦留学生の増加、海外協定大学院とのダブルディグリー制度の導入、客員教授招聘の恒常化、国際共同研究の推進、国際研究から得た研究成果の院生への還元、海外著名な学者の講演やセミナーの充実、院生の海外の国際学会やシンポジウムでの発表の奨励、日本語専門家として院生の海外派遣などは、国際交流の方針を確実に実行していることを物語っており、目に見える成果として考えられる。
★小項目 7.0.2	中国の名門である北京第二外国語学院と南京大学と部局間の協定を結び、2011年度から、北京第二外国語学院と南京大学からダブルディグリープログラムの一期生として前期課程の院生をそれぞれ2名ずつ迎えている。年に一回北京第二外国語学院で共同主催の国際フォーラムを開催し、研究科の院生も積極的に発表している。教員は、北京第二外国語学院の日語学院の教員12名と共同研究を行い、その成果(中国語母語話者の誤用コーパス)を院生の研究にも還元させている。 博士課程後期課程の院生の国際共同指導プログラムを開始以来、海外から日本語と英語の若手教員が3名来日して、研究科に在籍している。本研究科の後期課程の院生1名が日本語専門家(教員)として北京第二外国語学院に派遣し、そこで日本語を教えている。 2010年度は前期と後期を合わせて合計12名の院生が海外へ出向いて国際学会に参加し発表している。中国、アメリカ、イギリスの著名な研究者を招聘し、積極的に研究活動を推進している。継続中の中国との国際共同研究は、双方の教員だけではなく、院生も加わっている。以上のように、研究科において、国際交流を適切に行っている。
その他	

## 【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	国際交流の方針を再点検し、院生の視点からの国際交流を強化したい。
★小項目 7.0.2	国内外の国際交流を強化し、より質の高い留学生を確保し、国際共同研究や国際学会での発表など院生が加わりやすく、収穫のある国際交流を更に進めていきたい。
その他	

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	
その他	

## 【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 7.0.1	
★小項目 7.0.2	
その他	

## ◎自由記述

《点検・評価》《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### <評価専門委員会の評価>

##### 【学外委員】

○研究科の専門性や研究内容から積極的な交流が進められており高く評価できます。交流指定校や客員研究員や著名な研究者の招へい、院生の学会発表など適切な目標設定でありそれもすでに達成され今後も積極的な交流が予想され優れています。

##### 【学内委員】

○目標に対し着実に進展しています。

○外国人留学生の受け入れ数や外国人留学生比率は大幅に増えつつあり評価できますが、海外への派遣学生や国連ボランティアの参加者数がほとんど0で推移していることが気になります。推進方策についての検討が望まれます。

○海外からの外国人留学生数は飛躍的に伸びていることを評価したい。その一方、学内から海外に派遣する学生はほとんどいません。その不均衡をなくすことは難しいかもしれないが、努力が必要と思われます。

○国際交流協定締結機関も1校増え、着実に計画が進んでいます。ただ、目標はアジアで1校、欧米で1校となっており、進捗評価は「A」です。欧米での1校はまだ目標の中でしょうか。新たに欧米で1校を追加されるのであれば、目標を再設定することもお考えください。

○大学院外国人留学生海外推薦留学生の増加、海外協定大学院とのダブルディグリー制度の導入、客員教授招聘の恒常化、国際共同研究の推進、国際研究から得た研究成果の院生への還元、海外著名な学者の講演やセミナーの充実、院生の海外の国際学会やシンポジウムでの発表の奨励、日本語専門家として院生の海外派遣など、活発な国際交流活動を実行されていることが伺えます。

○海外からの学生の受け入れ人数が増え交流が進んでいますが、派遣が少ないようです。難しい問題があると思いますが、少しでも増えていくことを期待します。

○昨年度自由記述欄に記述された「社会人を含む研究生制度」の進行状況はどうでしょうか。

○国際学会の発表数も増えているようです。経年の数値を表にして本シートに示すこともお考えください。

○目標の進捗評価が「A」のものが多く、着実に取り組まれていることが伺えます。ただ、すでに達成されたのであれば、目標を新たに設定されることをお考えください。なお、その際は、中期的で、より具体的な目標を設定されることに注意してください。

### Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「海外への派遣学生や国連ボランティアの参加者数がほとんど0で推移していることが気になります。推進方策についての検討が望まれます。」というご指摘があったが、2010年より毎年ショートビジットの形では、中国に院生を派遣しているが、中長期の派遣はしていない。今後、中長期の派遣も検討したい。

★「昨年度自由記述欄に記述された「社会人を含む研究生制度」の進行状況はどうでしょうか。」というご指摘があったが、管理部門の許可がなければ、研究科が独自で推進することができないことをご理解いただきたい。

「国際交流協定締結機関も1校増え、着実に計画が進んでいます。ただ、目標はアジアで1校、欧米で1校となっており、進捗評価は「A」です。欧米での1校はまだ目標の中でしょうか。」というご指摘があったが、現在検討を進めているところである。